平成29年度　地域連携活動報告書

連携先名称	高知県	担当教員	農学科　馬場　正　・　髙畑　健
活動状況	継続中		根岸寛光・篠原弘亮・キムオッキョン・山口正己・乘越亮
協定締結日	2016年10月20日	活動資金	県の予算
活動内容	2017年9月11日から15日までの5日間、高知県農業技術センター生産環境課研究員野村朋江氏が、農学科ポストハーベスト学研究室に来室し、青果物の収穫後品質保持技術に関する研修を行った。 2018年2月26日（月）から3月5日（月）の7泊8日で愛媛・高知での農業体験研修を行った。そのうち高知県での活動は、28日（水）から4日（日）であり、高知県立農業担い手育成センターでの実習、中土佐町での農家見学、田条園と野村農園（ともにカンキツ農家）での実習、高知県農業技術センターの視察、赤岡青果市場の見学、牧野植物園の見学、日曜市の見学、西島園芸団地（観光農園）の視察などを行った。参加学生数は25名（世田谷キャンパスの学生も参加）であった。 2018年3月6日から7日まで農学科植物病理学研究室の根岸寛光、篠原弘亮、キムオッキョンの3名が高知県を訪問し、植物病理学的視点から情報交換を行った。		
活動成果	野村朋江氏の研修期間中には、氏に高知県の農業に関する現状を講演いただき、双方に貴重な情報交換の機会となった。とくに大学院生にとっては現場に密接した問題の設定など、自分の研究テーマを見直す契機となった。 今回の活動によって、①現場（農家）での体験・実習の重要性、②活動そのものが大学と地域に補完関係を構築させること、が分かってきた。学生は農業のみならず、地域について理解し、現在の社会状況や課題について学ぶとともに、地域は若い学生を受け入れることで活性化を図ることができるのではないかと考えられる。また、プログラム実施中において、毎晩、教員と学生とで振り返りミーティングを行ったが、自分の言葉で分かりやすく表現する（プレゼンテーション）能力が日に日に向上していることを感じた。また、プログラム終了後に、毎日の活動報告書を提出させることを課題とさせているが、それらを日を追って見てみると、活動内容の報告だけでなく、自分の意見や考察を論理的に展開できるようになり、文章能力も日に日に向上していることが伺えた。 ペピーノとカンキツ類に関する病害に関する情報交換を行った。ペピーノでは抵抗性台木の普及可能性を把握でき、またカンキツではウイルス病に関する貴重な情報交換ができた。		